

平成神道研究会20周年・神道時事問題研究会40周年記念事業
基調講演「円空と白山信仰」 講師：梅原猛（哲学者）報告

平成20年4月19日 那谷寺普門閣（石川県小松市）

白山信仰はいかに大事かをいいたい。日本に根付かせる。これによって日本の運命に関係してくる。白山信仰は非常に大事な信仰である。日本は神様と仏様が家の中に一緒にいる。私の育った知多半島にもある。神仏習合は泰澄が始めたものであり、その思想は役行者（えんのぎょうしゃ）に始まる。泰澄は福井県の生まれである。

白山信仰には三つの神がいる。主峰・御前ヶ峰の神はイザナミノミコト、北の大汝峰はオオナムチノミコト、南の別山はククリヒメノミコトである。それと本地垂迹説である。イザナミノミコトの本地は十一面観音、オオナムチノミコトの本地は阿弥陀如来、ククリヒメノミコトの本地は聖観音であるとした。このように神仏信仰をはっきりさせたのは泰澄である。生まれは神、死は仏は信仰の本質でありこれが白山信仰である。行基は白山信仰の泰澄から習い、八幡信仰を広めた。空海は東大寺を神仏信仰のお寺にした。これが真言密教である。東大寺南門の西にお坊さんを祭ってあることも真言宗のお寺である。白山信仰の泰澄は日本の神仏信仰を始めた人である。泰澄は本来なら正史に出てくる人である。（都でカットされた）泰澄は大変偉い人であり、病気・怨霊の鎮魂に活躍した。平安時代の僧・浄蔵が語ったという「泰澄和尚伝記」があり、平泉住職・平泉澄氏（東大教授）が校訂した本（歴史学者の網野善彦氏がすばらしいとべたばめしている）がある。その伝記によれば泰澄がどういう人かわかる。越前の生まれであり、父親の女中であったその母が父の家を追い出され、九頭竜川のほとりの小屋で泰澄を生んだ。お母さんの像はあるが、お父さんの像はない。父を憎んでいた。越知山で修業し、白山に登った。白山に思想をかかげた。神様が仏様に現れた。主峰・御前峰の神はイザナミノミコトで、その本地は十一面観音、北の大汝峰はオオナムチノミコトで、本地は阿弥陀如来、南の別山はククリヒメノミコトで、本地は聖観音であるとした。阿弥陀さんを除いて全部女性で、母の思いが強く、永遠の母の信仰である。ククリヒメは女性であった。観音様は本来女性ではなかった。観音様は性は無いのに女性として考えた。

泰澄は元正天皇の病気をいっぺんで治した。泰澄が都から帰るときは、美濃側から帰った。泰澄の兄の息子の子孫が郡上市の美並町に住んでいる。その家系が続いている。すごい事です。行基は泰澄の16歳年下であるが、泰澄に会いに来た。一緒に白山に登り、旧知の親友のごとく話し合った。行基のような有能な僧が泰澄を尊敬した。泰澄は行基に本地垂迹を教えた。春日大社、興福寺は王仁天皇によって作られた。八幡神社さまが天皇に入った。泰澄は当時最高の学僧であった玄昉から十一面観音の仏法を学び、元正天皇から認められている地位を許された。光明天皇はおかしいというスキャンダラスなうわさが広がった。立派な坊さんと皇后が恋をしても不思議ではない。乱が起こり、聖武天皇は奈良を出て、100人を連れて旅に出た。

天平9年当時藤原一門全部死んだ。その時泰澄が祈って沈めた。功績を上げて故郷（大谷寺）へ来て死んだ。泰澄伝記は間違いない真実であった。恋愛を怪しまれたから書かれなかった。小浜の行基仏、泰源寺の元正天皇の裸の姿、色っぽい像がある。泰澄は裸の姿をみて直した。間違いないけれど出せないで秘密にした。元正天皇は美人ではないがかわいい。泰澄伝は間違いない真実。十一面観音は泰澄。水の仏さん。白山こそ水を蓄えている神様。手取川、九頭竜川、長良川。北陸・岐阜・尾張は雪解け水で潤う。水の神だとした。農耕の神、養蚕の神、これが十一面観音である。阿弥陀と観音さんで、お釈迦と薬師さんがいない。白山は現世利益とあの世へおくる仏さんであった。美濃、郡上八幡、美並町の

白山の神は現世利益、富と知、長生きの神である。私は83まで生きた。神のおかげだよな。癌を3回やってもびんびんしている。このごろ神様のおかげだと感じる。利益と知恵と長生きとあの世へ送ってくれる神。さらに親鸞はまた生まれかわってくる。阿弥陀様が迎えに来る。泰澄が確立したのである。十一面観音にはすべての仏がいる。それぞれの顔が違うのである。白山は代表するきれいな水の神である。超水。心の煩惱を洗い清める。素晴らしい人だと思う。神仏信仰の最初の宗教家。

もう一つの大事なことがある。木彫物を始めたことである。山代（京都）と滋賀（岩間寺）は奈良への本拠地。桂の木がある。白檀の香りがする。桂で仏を作った。木彫物を作った。当時中国には木がなかったが日本にはいっぱいあった。泰澄が木彫物を作ったに違いない。行基仏は近畿を中心に多くある。行基作に違いない（美濃部正君）。全部白木造りである。顔は異相している。神像がある。泰澄仏があると思う。行基仏は田舎くさい。泰澄仏は都会人である。平安時代は木彫仏ってんぼりになる。

円空の像も異相している。人間の顔ではない。円空のお母さんは早く亡くなり、円空はお母さんを大事にする子であった。泰澄一行基一円空と繋がる。山の宗教、山に神様があるのが日本、みんなお山へゆく。白山には死んだ人の霊がいる。立山は死者信仰が白山よりはっきりしている。みんな死んだお母さんに会いたいと思う。山がお母さんと呼んでくれる。能で「善知鳥」というものがある。青森県の漁師の死霊である。自分の妻や子に自分の霊を吊ってほしい。日本のどん底の民、悲しい話である。世にも悲しい遠野物語は能の傑作である。泰澄一行基一空海へ繋がる。修験道が繋ぎ役を果たす。明治の国学思想により神仏習合が否定される、賀茂野真淵、本居宣長の思想により廃仏毀釈がおこった。仏教が捨てられた。仏像が川や谷に捨てられた。100万人の山伏が失職し、打撃を受けた。これは間違いであった。

日本人は神から自然を尊ぶ心を教わった。神に誓って嘘を言わない心を身につけた。私は嘘つきは嫌いである。（私も嘘をつくが最小限である。）

仏様から思いやりと慈悲の心を教わった。自分を顧みる忍辱の心を身につけた。これらは日本人のメンタリティ（心）である。日本の田舎ほど神仏を尊ぶ思想を持っている。近代化によって美しい心が失われてきた。神仏を失ってきた。その代りに国家神道ができた。これは昭和20年に否定された。これで日本人は心を失ってしまった。これが現代の状況である。神様は山の中、森の中にいる。日本は神が植物から鉱物まで習合している。その考えを修験道が持っている。もう一遍そこへ帰らないとだめである。神と仏を信仰する国へ帰れと強く言いたい。

梅原 猛（うめはら たけし、1925年3月20日生）：日本の哲学者。京都市立芸術大学名誉教授、国際日本文化研究センター名誉教授。京都市名誉市民。文化功労者、文化勲章受章。宮城県仙台市出身、愛知県育ち。

岐阜白山自然文化研究会 水上精榮